

別添様式1

協働事業計画評価書

事業者名	地区名	対象品目	計画内容	到達目標	現状値：令和元年	目標値令和6年度	実績値(t)					達成率(%)	検証方法	地方農政局等による評価
							R2	R3	R4	R5	R6			
拠点事業者 株式会社アドバンス	大阪府 東大阪市	野菜	<p>(1)生産安定・効率化機能 ・原料野菜の確保のため、(株)アドバンスが行う農業生産を拡大する。また、専門家(肥料業者)や奈良県のサポートを得ながら、反収増加及び安定化に取り組む。 ・産地にとって負担の大きい野菜の調整作業の分業により、産地の農業生産を効率化する。</p> <p>(2)供給調整機能 ・刻み葱専用の製造工場である拠点事業者の奈良工場において、刻み葱に加え、新たな需要品であるサラダ野菜を製造する施設を整備し、増築後の工場においてもHACCPの取組みを実践する。 ・原料野菜の保管機能については、増築する奈良工場に冷蔵庫を整備するとともに、隣接する増田農業(株)の集荷場にある冷蔵庫を活用することで、需要や生産量の増減にあわせた供給調整機能を担うことができる。</p> <p>(3)実需者ニーズ対応機能 ・原料野菜について、生産履歴の見える化や施肥量や防除回数等をルール化した栽培基準(マニュアル等)を作成し、連携者の契約生産において共通化する。 ・情報システムを使った生産履歴の情報共有化やJGAP等を参考にした農業生産工程管理などに取り組むとともに、連携者の優れた技術を共有することで生産技術の高位平準化に取り組む。 ・秋～春の時期は西南暖地(徳島、兵庫など)を主要産地とし、初夏～秋の時期は高原地(長野など)を主要産地とすることで、通年での安定的な原料供給を行う。 ・東アジアの一部の地域(台湾、シンガポールなど)に対し、日本産の野菜を使った簡便な加工野菜商品を、リードタイムのかからない空輸により拡販する計画に取り組む。</p> <p>(その他) ・生産安定化のため、その他の拠点事業者である増田農業(株)を核として、連携者である農業者との契約生産を進める。</p>	総出荷額に占める業務用出荷量の割合を66.1ポイント以上増	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 33.9%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 100%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 36.85%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 61.7%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 81.3%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 97.1%	総出荷額に占める業務用出荷量の割合 109.2%	114.0%	当社の仕入実績データより検証する。	達成率は100%以上であり、目標を達成した。
その他の拠点事業者 増田農業株式会社	奈良県 御所市													
連携者1 大幸食品株式会社	徳島県 阿波市													
連携者2 (有)柴生農園	徳島県 阿波市													
連携者3 Top Field	兵庫県 南あわじ市													

別添様式1

協働事業計画評価書

事業者名	地区名	対象品目	計画内容	到達目標	現状値: 令和元年	目標値令 和6年度	実績値(t)					達成率 (%)	検証方法	地方農政局等による評価
							R2	R3	R4	R5	R6			
拠点事業者 株式会社姫路生花卸売市場	兵庫県 姫路市	花き	1年目 ①生産安定・効率化機能 ・鮮度保持のための前処理方法提案及び助言 ・輸向け生産物規格の導入提案及び助言  ②供給調整機能 ・長期保管が可能な保冷库の設置による需給調整を試行 ・前処理の評価と改善、輸出する際の規格に関する情報を生産者へフィードバック  ③実需者ニーズ対応機能 ・最適な出荷箱サイズの策定 ・販売先への国産商品の加工販売提案 ・需要の高い品目・品種と規格について調査  ④連携者の取組 ・鮮度保持のための前処理の検証	総出荷額に占める輸向け出荷割合を年平均5ポイント以上増	総取扱高 1,373,119 千円  輸出実績なし(0%) (※令和2年度3月時点)	総取扱高 1,400,840 千円  輸出額 70,042千 円(5.0%)	総取扱高 1,278,647 千円  輸出額 10,459千 円(0.8%)	総取扱高 1,567,266 千円  輸出額 13,007千 円(0.83%)	総取扱高 1,935,203 千円  輸出額 15,591千 円(0.81%)	総取扱高 1,864,572 千円  輸出額 16,469千 円(0.88%)	総取扱高 2,029,086 千円  輸出額 12,712千 円(0.62%)	12.4%	輸出強化品目の輸出額と輸出金額を定点観測する。	当初は品目ごとに目標を設定していたが、品質保持や、現地需要とのミスマッチ等により、品目ごとの数量・金額ともに目標値から乖離があった。また、コロナ後、国内では需要の回復により取り扱い数量は増加したものの、燃油代の高騰により花木類の十分な加温ができず、品質低下があったり、輸送コストの高騰、減便により輸出が伸びず、目標未達となった。事業実施主体に対し、目標達成に向け、市場耐性と輸送耐性を兼ね備えた品目のシフト、輸送先国の選定について指導を行うとともに、改善計画を提出させる。
その他の拠点事業者 株式会社西日本フラワー	兵庫県 姫路市													
連携者1 株式会社やぶの花	兵庫県 養父市													
連携者2 京果園 神田哲而	広島県 竹原市													
連携者3 藤原農園	岡山県 笠岡市													
連携者4 アキバナーセリー	山形県 山形市													
連携者5 さがえ西村山農業協同組合	山形県 寒河江市													
連携者6 株式会社フラワースピリット	長野県 松本市													
連携者7 JA岡山西フルーツフラワーセンター	岡山県 倉敷市													
連携者8 高知県農協 芸西集荷場	高知県 安芸郡													
			2年目 ①生産安定・効率化機能 ・保管期間に合わせた前処理方法の実施 ・輸出に即した規格導入  ②供給調整機能 ・国内外に対する需給調整の本格的始動  ③実需者ニーズ対応機能 ・国産品を使用した加工商品試験販売 ・輸販売の定期化及び強化 ・輸向け出荷規格に関する評価・情報収集及び共有  ④連携者の取組 ・保管期間に合わせた前処理方法の実施 ・輸出に即した規格導入  3年目 ①生産安定・効率化機能 ・需要に即した生産品種の導入 ・需要に即した生産品種の提案及び助言  ②供給調整機能 ・多品目の需給調整  ③実需者ニーズ対応機能 ・輸出強化品目の輸出強化と販路の拡大 ・花東加工済みの商品についても輸出を検討  ④連携者の取組 ・需要に即した生産品種の導入											

別添様式3

到達目標の達成率が90%未満の拠点事業者

拠点事業者：株式会社姫路生花卸売市場

成果目標の具体的な内容	現状値 (R2年3月時点のR 元年度実績)	目標値 (令和6年 度)	事業実施後(目標年度)	目標 達成 状況	改善目標 年度	(参考) 改善指導の判断理由
			実績値			
総出荷額に占める輸出向け出荷額割合を年平均5ポイント以上増	総取扱高 1,373,119千円 輸出実績なし (0%)	総取扱高 1,400,840千 円 輸出額 70,042千円 (5.0%)	総取扱高 2,029,086千円 輸出額 12,712千円 (0.6%)	未達成 12.4%	R9	達成状況が12.4%と低調であること、改善策については、現状を踏まえた観点からも検討すべきであるため、市場耐性と輸送耐性を兼ね備えた品目へのシフト、輸出先国の選定について指導を行う必要がある。

(注)1. 価格補正を行っている場合は価格補正後の実績を記入する。